

食道がんに対する腫瘍融解ウイルス療法

岡山大学は、食道がんに対する腫瘍選択的融解ウイルス製剤「テロメライシン（Telomelysin、OBP-301）」を用いた放射線併用ウイルス療法の臨床研究について、安全性と有効性が確認できたことを発表しました。



テロメライシンは、岡山大学で開発された国産の抗がんウイルス製剤で、感染したがん細胞を殺傷するとともに、放射線に対する感受性を増強することが明らかとなっています。同大学病院では、食道がん患者を対象に、同剤の内視鏡的腫瘍内投与と放射線治療を併用する臨床研究を行ってきましたが、12例中11例で腫瘍縮小が認められ、うち8例では食道の腫瘍が完全に消失しました（完全奏功、CR）。

